



税の仕組みについて

立正大学付属立正中学校 三年 氏家 賢人

「税」は、僕たちが安心して暮らしていく為に、なくてはならないものです。「税」についての作文に取り組む為に僕はまず、「税」には、どのような種類があり、どのようなことに活用されているのか調べました。中でも国税庁の「税の学習コーナー」はグラフやイラストで説明されていたので、よく理解できました。そして、初めに書いた思いにだどり着きました。これから調べたから分かった僕が日常生活の中で受けてきた税の恩恵についてお話しします。

中学入学後、体育祭やスポーツテスト、夏休み中の部活の練習などを大井ふ頭中央海浜公園のホッケー場や陸上競技場で行われるのでよく行っています。この公園は、広々として良く整備されているので、とても気持ち良く運動できる場所です。この公園は都立公園なので、新設の時の工事費や、今の維持や清掃などにも市民が納める税金で賄われていると思います。また、僕の家の方に六郷用水があり、用水路沿いは緑豊かに造成されて水路の中に鯉や亀がいて小学生の頃、友達とザリガニを捕まえて遊んだことは楽しい思い出です。この用水路が緑豊かに造成されたしばしば用水路内の清掃や木々を整えている方々に出会います、この緑豊かな地域で暮らせるのも税金

を有効活用して下さっているからだと思います。

また、僕が一歳の時に肺炎になってしまい入院した病院は、都立荏原病院でした。この時のことは小さかったので記憶にはないのですが、看護婦さんに手厚く看病していただいたことや、優しいお医者様に治療していただいた時の話を後に大きくなってから母から聞きました。救急車には乗らなかったものの急患としていった僕の診察をすべに下さり母は本当に感謝していると話していました。荏原病院も、税で運営されています。

困っている時に助けてくれる仕組みがあるのは、とても有難いと思います。更に地震や台風等の災害の時、政府や自治体は、すぐ支援してくれます。被害に遭った人々を助け地域復旧を進める為に、税は使われます。

税を納めることは負担もかかります。一生懸命に働いたお金の一部を、納めなくてはならないことに、不満を感じる人もいるかもしれません。けれども、税は社会全体で支え合つための「みんなのルール」でもあります。「自分が今助ける側でも、将来は助けてもらう側になるかもしれない」と考えれば不満を感じることはなくなると思います。僕はまだ税を納める立場ではありませんが、将来社会人になれば、その重みを実感することになるでしょう。その時、ただ「払わされている」と感じるのではなく、「社会を支えている」と考えたいです。皆で納税することで、次の世代の子供たちの教育や誰もが安心して心豊かに暮らせる社会を支えられるのです。